

# 謹 賀 新 年



宮城蔵王・冬のお釜

写真・宮城県観光課提供



## 計 量 み や ぎ

2013.1.15

編 集 発 行

仙台市太白区長町7-22-23

(一)宮城県計量協会

TEL 246-2466・FAX 247-1490

www.keiryō.net/

### 復興に向けて

### 発展の「種」をまく年に



宮城県知事

村 井 嘉 浩

宮城県内に未曾有の被害をもたらした平成二十三年三月十一日の東日本大震災から一年十か月余りが経過しました。この間、被災地の復旧・復興に向けて、全国の皆さまからの御支援と御協力の下、県民一丸となつて最大限の力を注いでまいりました。

県では、平成二十四年を宮城県の新たな歴史を刻むスタートの年として「復興元年」と位置付け、「宮城県震災復興計画」（平成二十三年十月策定）を着実に実施し進行管理を行うため、「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」を昨年三月に策定しました。

この計画に基づき、河川や道路、漁港、港湾など公共施設や農業施設の本復旧工事、新たなまちづくりのための区画整理事業が開始されるなど、復旧・復興に向けた取組を本格化させたところです。

また、昨年十月には震災後初の全国規模のイベントである「ねりんピック宮城・仙台2012」を開催し、全国から多くの方々に本県を訪れていただくことができました。

「宮城県震災復興計画」では、復興達成の目標年度を平成三十二年度と定め、今後十年間の復興の道筋を示しています。今年には、被災者支援を中心に生活基盤や公共施設を復旧させる「復旧期」の最終年に当たります。特に被害の大きかった沿岸部を中心とする被災地においては、生活再建や地域経済の建て直しなどの課題が山積し、いまだ厳しい状況にあるた

め、被災市町と一体となって、一層のスピード感を持つて、復興事業を推進していかねければなりません。そのため、昨年に引き続き「宮城県震災復興計画」に掲げる分野別の七つの政策を主要政策と位置付け、重点的に推進することによって、県民の皆さまが復興の歩みを実感できるよう、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

さて、「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」が今年四月から六月に開催されます。震災発生からこれまでの間に賜ったたくさんの方々の感謝の気持ちを込めて、全国からのお客様を温かくお迎えしましょう。私も、笑顔でおもてなししたいと考えています。

県政における最優先課題は、震災からの一日も早い復興です。今年には「宮城県震災復興計画」に掲げる「再生期（平成二十六年度～二十九年度）」を視野に入れ、発展の「種」をまくことができるよう、復興に向けた取組を加速させてまいります。

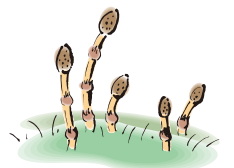
復旧・復興への道のりは長く険しいものですが、十年をかけて震災前の状態に戻す「復旧」にとどまらず、将来の県民生活を見据えた抜本的な再構築によるふるさと宮城の再生とさらなる発展を目指して、積極果敢にチャレンジしてまいります。明るい未来を目指しながら、県民の皆さんと手をつなぎ一緒に進んでまいりたいと考えておりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

# 年頭のご挨拶



会長

## 鍋島 孝敏



新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様にはお揃いで新春を迎えられたこと心よりお慶び申し上げます。

ようやく、「おめでとうございませう」という挨拶が出来るようにはなりましたが、被災地の復旧は遅々として進まずせうかくガレキを片付けた後に今度は家屋の土台を掘り起こして、再びコンガラの山となつていきます。その後に土地のかさ上げを行い、区画整理をして居住地と工場用地を分けた上で住民の移転と新工場群の建設を始める、という気の遠くなるような行程が控えています。

当協会と致しましても、被災した多くの計量器の定期検査業務が無くなり、昨年度に引き続き大変苦しい財政運営を強いられております。しかしながら、計量器というのは産業の再生・復興にはなくてはならないもので、その重要性を再認識させられたのも今回の大震災の賜物であります。産業の再生無くして地域の復興は無く、計量業界の貢献無くして産業の再生は無い、という気概

で今後の活動も充実させて行きたいと考えている所でありませう。

「一般社団法人」となつての初年度を何とか無事終えられそうなのも、日頃からの理事さんを始め会員の皆様のご協力のおかげと衷心より御礼申し上げます。

本年も、会員の皆様の益々のご発展をお祈りして年頭のご挨拶とさせていただきます。

### 仙台市経済局 産業政策部経済企画課

課長 佐野直樹

平成二十五年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日頃より仙台市の計量行政ならびに市政各般にわたり、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災の発生により本市の地域経済や雇用情勢にも大きな影を落とすことになりましたが、被災された企業の皆様の懸命な

努力と国内外からの厚いご支援により、復興需要という追い風の中、今日では一定の立ち直りを見せているところがございます。

本市といたしましては、今後、復興過程で生まれる新たな需要や先駆的プロジェクトを推進力とし、地域企業の皆様の取引拡大と競争力の強化を図るとともに、成長性のある企業の立地促進や雇用の拡大にも取り組み、さらには様々な国際会議などのコンベンションの誘致や大型観光キャンペーンを展開するなど、東北への交流人口の回復を図りながら、本市の経済の活性化に向けて精力的に取り組むとともに、東北のリーダー都市として、東北全体の復興を牽引すべく、復興の階段を全力で駆け上がって参りたいと考えております。

貴協会におかれましては、本市の指定定期検査機関として市内の計量行政を支えていただき、安定した計量検査の実施にご尽力いただいていることを改めて感謝申し上げます。引き続き、市民生活の安全安心の確保や健全な産業活動推進のため、ご理解ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方ますますのご健勝とご繁栄を祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

# 迎春

あけまして

おめでとうございます

会長	鍋島 孝敏	理事	新井田 匡彦
副会長	千葉 信弘	同	江 刺 茂
顧問	石川 光次郎	同	阿 部 孝博
同	渡 辺 博	同	高 橋 栄一
同	大 沼 繁幸	同	嶺 岸 優
同	鍋 島 綾雄	同	松 尾 靖
専務理事	草 刈 謙一	同	橋 本 裕之
常務理事	佐 藤 正使	同	熱 海 周一
常任理事	菅 原 功	同	南 部 満
同	加 藤 啓二	同	安 齋 敏行
同	斎 藤 孝司	同	相 澤 俊宏
同	笠 原 秀	同	鈴 木 昇二郎
同	武 田 巖	監事	大 湯 澄
同	松 原 大介	同	二階堂 亮一郎
理事	三 瓶 総一	同	和 田 剛和
同	松 本 康成		

(敬称略)

# 平成二十四年度 東北・北海道計量大会 第六十一次 東北六県北海道計量協会連合会総会

平成二十四年度東北・北海道計量大会及び第六十一次東北六県北海道連合会総会が、十月十八日に岩手県盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡」を会場に開催された。大会には、国並びに各道県の計量行政機関、計量団体、会員百六十名あまりが集い、開会が宣言され、主催県の東北六県計量協会連合会小野寺修会長より歓迎の挨拶があり、続いて来賓祝辞と計量思想の普及啓発に尽力された八名の方々の計量功労者表彰が行われた。本県からは(財)宮城県公衆衛生協会の熱海周一氏が受賞された。

最後に計量人としての大会宣言が読み上げられ満場一致で採択された。



平成24年度 東北・北海道計量大会(岩手県)

## 大会宣言

現在、地域計量団体を取り巻く状況は、長期にわたる経済の停滞や東日本大震災等による影響を受け続けている一方で、経済社会の規制緩和及び産業や消費生活における安全安心の問題に適切な対応を求められている。

長い歴史を有する東北北海道の計量団体は、これまでも日頃の活動を通じて、計量制度の維持普及に努めてきており、産業の発展と国民生活の安定に大きな貢献を果たしてきたところである。

また、今後の経済社会においても、社会経済及び産業活動の基盤としての正確な計量の重要性は、いささかも失われることなく、我々は引き続き、計量に関する知識や技術の提供に努め、時代の変化に対応した正しい計量知識の普及に努める必要がある。

ついで、本大会を機に改めて計量団体が、活発な活動の展開に努めることを誓い、確立した信頼の下に、計量制度の社会的使命と役割を果たすことを宣言する。

平成24年10月18日

東北・北海道計量大会



計量功労者表彰 熱海周一氏

- 大会に引き続き第六十一次東北六県北海道計量協会連合会総会が会則に従い小野寺会長が議長に就き、前年度開催地であった秋田県より、東日本大震災で開催が危ぶまれたが、被災三県の後押しもあり、無事開催されたことに対する御礼と報告を受け議事に入った。
- 各県からの提出議題は次のとおりである。
- 議題一 放射線測定器の今後について (福島県)
  - 議題二 放射線量の環境計量証明事業登録制度への追加要望 (宮城県)
  - 議題三 放射線測定を計量法で規制するよう要望したい (山形県)
  - 議題四 連合会総会次期開催地について (岩手県)

議題は、三県同様の放射線測定に係る計量法での適正化を図るべきという、計量人の正しい計量器で正しく計るという共通した要望議題であった。

これに対して、経済産業省産業技術環境局知的基盤課計量行政室飯塚利行課長補佐から、一般論として新たな規制にはメリットとデメリットがあり、デメリットに対する種々の懸念を払拭できるかが心配される。具体的には現在需要が急増している放射線測定器の規制による供給の滞り、価格の急騰、検査する地方計量行政機関の受け入れ問題(施設や技術者の配備)や従来の規

制を受けないで使用していることによる問題が生じていないことなどから、デメリットが少ない形で何らかの規制を導入できるか見極めながら検討していきたいという説明があった。

質疑は福島県から、規制対象を絞ったり、可能なものから規制する等と、まず第一歩を踏み出す施策の検討要望が提案された。計量行政室からは具体的に検討する際は協力をお願いしたい旨の回答があった。

質疑応答の後、本県の鍋島会長から、この要望については、国の計量行政機関や中央計量団体の方々に連合会全体で要望したい旨の緊急動議があり、全会一致で承認した。

※この要望については、十一月十五日付けで関係機関に提出された。

議題四で、本総会の次期開催地は福島県(会津若松市)で開催されることに決定された。

総会終了後、お天気解説工房の藤澤光夫気象予報士による「お天気よもやま話」と題しての気象にまつわる記念講演があった。

交流会は、早池峰神楽を鑑賞しながら、岩手の地酒を愛でながら一同和気藹々のひとときを過ごした。



翌日の視察研修会は、日本の明治・大正時代の詩人、宮沢賢治の記念館と御所ダム湖畔にある盛岡手造り村を巡りました。



宮沢賢治記念館 猫の事務所の職員がお迎え

雨にも負けず

宮沢賢治

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫な体を持ち  
慾はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている



# 計量のひろば



今年の『みやぎ計量のひろば』は、例年の仙台市内から離れて、近郊の名取市にある大型商業施設のイオンモール名取ウエストウイング広場で、宮城県・仙台市共催、名取市後援のもとに行われました。

休日の来場者は5万人もあるという会場なので、全国区で有名な宮城県観光キャラクター”むすび丸”や日本電気計器検定所イメージキャラクター”ミクちゃん”の参加と、専属アナウンサーの進行で盛況に催されました。

また、重さあてクイズもむすび丸が登場することから、発泡スチロールで作成した模擬”おむすび”に分銅のタネを入れたものの重さを当てる企画をしました。景品は体組成計も計れるヘルスマーターやカロリー計量器、さらに参加者には花のポットなどの景品を用意し、多数の来場者と楽しい計量の日を過ごしました。

平成24年  
10月27日(土)  
11:00～  
14:00

## 111グラムを当てようコーナー

アメを111gピッタリの重さに計れるかな？  
ピッタリ計量した方には豪華賞品を差し上げます。



(ピッタリの方がたくさん出て景品が・・・ ^\_^;)

## 重さ当てコーナー

このおむすびの重さはいくらかな？  
中にはウメボシではなく分銅の種が入っているぞ！



「おめでとう  
1等賞！」

## 健康測定コーナー

健康管理は正しい計量器で正しく計ること  
人がたくさんいるのでドキドキ



むすび丸とミクちゃんもお手伝い

# 平成二十四年度 計量記念日全国大会

経済産業省・計量記念日組織委員会が毎年主催する「計量記念日全国大会」が、計量記念日の十一月一日、東京浜松町ホテルインターコンチネンタル東京ベイで催された。

第一部の計量記念式典では、計量行政に永年携ってきた方や計量器の開発技術の向上に貢献してきた方々に経済産業大臣の表彰があり、計量制度の運営等に貢献のあった方々には産業技術環境局長の表彰があった。

第二の記念行事では、「何でもはかってみようコンテスト」と「計量啓発標語」の受賞作品の発表と紹介があった。

「何でもはかってみようコンテスト」は、小学生を対象に、学校や家庭生活の身近なものについていろいろなばかり方を実践し、はかることの楽しさ・大切さを体験・理解できる場を提供し、小学生の計量に関する理解の向上を図ることを目的に、全国から多数の応募がありました。今年度で八回目になるこのコンテストには百十三点の応募があり、最優秀作品には、茨城県鹿嶋市立鉢形小学校四年生の高橋楓さんの『くもの巣をはかる』が選ばれました。

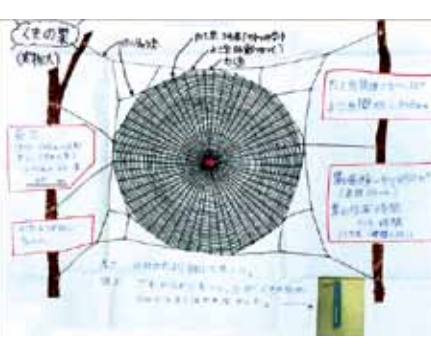
庭にあるくもの巣を見て、まっすぐにしたらどれくらい長さになるか、はかってみたくなって、実際のくもの巣の糸の間隔や角度を測り、同じものをもめん糸で作って、その使用した糸をはかりました。くもの巣の長さは自分の身長二十四倍もあったのにはびっくりしたそうです。

このほかの優秀作品には人間の体のいろいろな部分を測った作品（福島県小四年生）、いろいろな階段を測った作品（神奈川県小三年生）がありました。

計量啓発標語は協会員、地方行政機関、計量関係団体、各企業などに呼びかけ募集したところ、七九一点の応募があり、最優秀の標語は、**身につけよう きちんと計る 良い習慣**でした。

特別講演は、高橋重雄（独）港湾空港技術研究所理事長による「津波から生き延びる」。

東日本大震災の津波の甚大な被害を受け「防災は災害を知ることから始まる」という考えから、①津波災害の歴史②津波の発生と伝播③津波の来襲と被害④これまでの津波対策⑤東日本大震災の教訓⑥これからの対策⑦関東地方の津波について、写真や図解説明があり、GPS波浪計などによる沖合で津波を計る重要性の説明がありました。



もめん糸で作られた最優秀作品『くもの巣をはかる』

# 平成二十四年度 第三十四回東北六県計量士協議会

平成二十四年度東北六県計量士協議会が、本県当番で十二月十三日、エルソール仙台で東北六県の計量士十九名が集い開かれた。来賓として（一社）日本計量振興協会村松徳治常務理事が出席された。

今回は、少額経費の会議運営と自由開通な計量ディスプレイをとり入れた研修会を実施した。第一部の議事では、次の議題が提案された。

**議題一 特定計量器定期検査（二年に一回終了後の未受検者対応）について、最終処置方法として代検査で処理する場合の対応上の問題点について**（秋田県）

**議題二 職員及び所属計量士会員への資格取得助成について（情報交換）**（青森県）

**議題三 各県で行っている計量計測に関する外部向けの研修会、セミナーについて（情報交換）**（岩手県）

**議題四 郵政民営化法の一部改正に伴う変更課題について**（福島県）

**議題五 次期開催について**（宮城県）

議題一について、秋田県の指定定期検査機関として集合検査を実施しているが、毎年未受検者があり、県の指示により代検査で対応しているが、暴言・苦言・脅し・時間外指定など申し立てられ、県市からの再通知に従わない未受検者の対応に苦慮している現状、各県に教示を求めたものであった。

り締め強化に委ねるべきである。また、代検査は申請者からの代行依頼申込みにより行うものであり、未受検者の検査は、持ち込み検査等で受検可能な対応も考慮すべき提言があった。

議題二、三については各県の状況説明があった。

議題四については、日本計量振興協会から郵政民営化法の改正についての説明があり、統合による事業所の縮減、夜間窓口用はかりの一部減少等による、適正計量管理受託事業費の削減になる報告があった。

議題五で、次期開催県は秋田県ということになった。

第二部の研修会では、フリーディスプレイ方式を試み、本県が座長を勤め、演題として設けた『不確かさ』と日本計量振興協会「計量を巡る課題研究報告」からの『定期検査の後続検定と検定計量士』について意見交換をした。

『不確かさ』については、その「求め方」といかに使うかという「活用」の理解を深めることで、一般に説明ができればよくなるという提言が出された。

『後続検定と検定計量士』は、今後の計量法改正時の検討になるかもしれない課題の一つであり、注視していく必要がある等の説明と意見が交わされた。

さらに、当計量士協議会に、連合会同様北海道も加える提案が出され、各県了承し、事務局長会議等で北海道に呼びかけをすることとした。研修会の講話として、日本計量振興協会の村松常務から、『最近の計量関係情報等』と題した、計量に係るJIS改定などの話があった。

## 第二回 測定基礎研修会開催！

ものづくりの製造事業者等を対象に製品の開発・生産に欠かせない「測定」について、その基礎知識を学ぶ研修会を、昨年好評を得たので、本年度も（社）みやぎ工業会の共催を得て第二回目を開催します。

会員はもちろん、他の県内企業の若手社員を中心に多数参加を呼びかけ、ものづくりのみなさんの応援をいたします。

開催日時 平成二十五年一月十七日（木）  
研修会場 仙台エル・エルソール仙台  
定員 五十名  
研修カリキュラム

- 測定の基礎
- 測定器の基礎知識と使い方
- 測定器の管理
- 測定の「べからず集」、失敗例
- ※ギス・マイクロメーター等の実習

## 計量器コンサルタント 資格認定講習会のご案内

本資格認定講習会は、計量器販売者とその専門性を高め、計量器ユーザーのニーズに対応する適切なコンサルティングと情報提供ができる計量器販売者の育成講習会で、（一社）日本計量振興協会と全国計量器販売事業者連合会及び地区計量協会が共同で開催しております。

この度は、東北地区の仙台会場講習会が開かれます。計量器販売会員の皆様の受講を推奨致します。

日程 平成二十五年二月五日（終日）  
会場 ムルバルク仙台  
定員 五十名

※詳しくは協会に問い合わせ願います。

## 第十一回 全国計量士大会

来る二月二十二日、京都市のリーガロイヤルホテル京都で、第十一回全国計量士大会が開催されます。

「計量士と計量士団体の発展に向けて」というメインテーマで、本協会が東北代表として「計量協会事業における取り組みと課題」と題し、他県に事例が少ない事業を紹介いたします。

# 宮城県計量検定所からの

## お知らせ

今年度の中元期(七月二十四日～八月六日)に行った「商品量目立入検査」の結果は、検査個数六百九十一個(二十三戸)のうち量目不足は十四個(三戸)で不適正率は2%でした。昨年の中元期における量目不足は0個でしたので若干の増加となりました。量目不足の主な原因は、計量時における風袋量の誤った設定などであり、計量時に注意を払えば量目不足は防げるものでした。また、同時に実施した取引に使用している「はかり」の検査においては、検査台数百八十五台のうち定期検査未受検等の不適切なものはありませんでした。計量思想の普及啓発活動が功を奏してきたものと考えていますが、一時的なこととならないようこれからも適正計量の推進に努めてまいります。

今後は、適正な計量器の供給に向けて計量器製造・修理事業者、計量証明事業者への立入検査を実施するとともに、一般家庭において使用する石油ガスメーターをはじめ、灯油販売用車載燃料油メーター等の立入検査を実施していきます。また「出前講座」の開催などを通じてより一層の計量思想の普及啓発に努めていきます。



### 平成二十五年年度

## 定期検査

### 実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十条(指定定期検査機関)に基づき、仙台市の定期検査は、次のとおりです。

- 青葉区、太白区

### 平成二十五年年度

## 特定計量器代検査

### 実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十五条(定期検査に代わる計量士による検査)による検査区域は次のとおりです。

- 石巻市(大型はかりについては旧石巻市のみ)
- 栗原市
- 塩釜市
- 多賀城市
- 登米市
- 刈田郡(蔵王町、七ヶ宿町)
- 黒川郡(富合町、大和町、大郷町、大衡村)
- 柴田郡(柴田町、大河原町、村田町、川崎町)
- 宮城県(利府町、松島町、七ヶ浜町)

\*検査対象の事業所に対しては、具体的な日程等について当協会よりご通知差し上げます。また、検査を受けていない事業所で、取引証明に使用されている計量器をお持ちの場合は、定期検査を受検されますよう宜しくお願い致します。

## 計量ニユース

人の体等の生体内圧力に使用されている計量単位のmmHg(水銀柱メートル)は、計量法の経過措置期間が切れる平成二十五年十月一日から、取引証明用として使えなくなり、パスカル・ニュートン/平方メートル等のSI単位(国際単位系)に移行します。

えっ！血圧計の単位もmmHgなので、「血圧〇〇」だから健康と馴染んできた健康目安の数値が変わったら訳が分からなくなる迷惑千万だ。いや、ご安心下さい。日常的に使われている血圧の単位は、この生体内圧力(頭蓋内・眼圧。気道内圧等)からは除かれ、今までどおり使用できるのです。

このことについては、平成二十三年十二月に経済産業省計量行政室から周知文書が出ておりますので参考にして下さい。

### 平成二十四年度 優良事業所視察研修会

本年度の優良事業所視察研修会は、県南地域の工場視察を予定しています。会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

【期 日】平成二十五年二月十五日(金)

【場 所】アイリスオーヤマ㈱ 角田工場 (家庭用プラスチック製品の製造)

●仙台コカ・コーラプロダクツ㈱ 蔵王工場 (蔵王の水を使用した清涼飲料水の製造)

●榊台ニコン (精密光学機器製品の製造)

## 正しいはかりの見分け方

スーパー、製造工場や「近所のお店」等で商品の販売等に使用しているはかりは、二年毎に公的機関等の定期検査を受けております。この検査を受けることにより、〇〇gと表示されるはかりの値は、県内どこでも同じ重さを示します。そんなの当たり前だといいますが、この公的機関等の地道な検査が実施されているから正確さが当たり前のようには確保されているのです。はかりの定期検査は、車の車検と同じ、暮らしを守る安心安全の制度なのです。

定期検査を受け合格したはかりには、左のような検査済シールが貼られますので、お買い物物などの際には目にして下さい。

この定期検査を受けるのは、商品の売方や重さの証明に使用しているはかりで、工場等の製造ラインのはかりや自主管理に使用されているものは対象になりません。しかし、「正しい計量器で正しく計る」のも信用と経営の管理の一つの基本です。この計量器の検査については、希望により当協会で精度検査を行っております。詳しくは、協会ホームページ (<http://www.kei-ryo.net>)に掲載しておりますので参照いたします。



### 協会便り

東日本大震災復興の足音は、県計量業界の方にも着実に聞こえてきました。昨年末までに商店や事業所に新しく入ったばかりは千台以上もあり、震災瓦礫処理のため導入されたトラックスケールも数多く増え頻繁に使用されています。

また、泉分室の工業材料試験も、建設工事に使用されるコンクリートや鉄筋の試験件数が例年の五十%増にもなっています。

今年、例年の事業展開ができると、協会職員一同張り切っておりますので、よろしく宜しくお願い致します。

## 編集後記

「昨年」の世相を表す漢字は「金」、これは「金」に関する天文現象の当たり年(九百三十二年ぶりの金環食・二十一世紀最後となる金星の太陽面通過・金星食)であったことと、数多くの「金」字塔が打ち建てられた(東京スカイツリー開業・ロンドンオリンピック最多三十八個メダルの獲得・IPS細胞研究の山中教授のノーベル賞受賞)と明るい話題の反面「金(分)ね」をめぐる問題が発生(年金資産運用詐欺事件・生活保護費の不正受給・消費税増税・東日本大震災の復興予算の使途問題)など金輪際あってはならないことがあつた年だからという。さらには「トジョウが出てきてこんなにちが」と挨拶したと思ったら、年末の慌ただしい時期に「では、さよなら」と、そして昔の政権が蘇つた年でもあった。

それでも新年を迎えるにあたり一応新政権には、雇用や景気対策を早急に、大きく好転させてほしいと期待します。

宮城県の村井知事は、昨年は宮城県の新たな歴史を刻むスタートの年「復興元年」と位置付け土壌整備をしました。

今年「復興」に向けて発展の「種」をまく年にし、復興の歩みを実感できるようしっかりと行政を推進していくと新年の挨拶を述べられました。

我々計量人も、計量の種の下し「サビリティ」を後生に伝えるため、堅持伝承していくかなければならないと思います。

また、本年は四月早々「仙台・宮城ステイネーション」キャンペーン「が開催されます。震災発生からこれまでに間に賜ったたくさんの方々の感謝の気持ちを込めて、全国からのお客様を温かく笑顔でお迎えしたいと思っております。